

科目名	フィナンシャル・ アカウンティング論特講	担当者	丸森 一寛 カズヒロ	期間	通年	単位数	4
-----	-------------------------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座では、外部報告目的の財務諸表について、そのメカニズムと利用方法を学び、経営管理者として意思決定に適切に利用できるようになることを目的とする。隣接科目である「マネジメント・アカウンティング特講」が内部の経営管理者の意思決定に役立つ情報提供を対象としているのに対し、本講座は外部の利害関係者への報告を対象としている点で相違する。具体的には、「企業の活動が財務諸表にどのように表現されるか。」および「財務諸表から企業の活動をどのように分析評価するか。」というメカニズムと利用方法の習得をめざす。</p>		
到達目標	<p>①企業活動の認識・測定ルール及び正しくかつ効果的な財務諸表の開示方法と、②財務諸表の分析による企業活動の評価方法を習得し、それらを経営管理の現場における意思決定に利用できるようになることである。具体的には、財務諸表（PL・CF・BS）に与える影響を踏まえたうえで経営管理者として適切な意思決定を行い、会計の専門家（経理責任者、税理士、公認会計士）に指示が出せる、通学制のMBAコース修了生と同等のレベルを到達目標とする。</p>		
学修方法	<p>全体を12のテーマに分け、各テーマ毎に学習目標（4から17）を設定している。学習目標毎に基本教材および副教材（有価証券報告書等）の該当箇所を明示するとともに、副教材を問題&回答形式とすることにより、履修者が自習によっても学習目標がクリアできるように工夫されている。副教材の問題の回答を準備し、その後解答との照合を行うとともに解説を読んで理解を深めることが必要である。その際理解が困難であったり疑問が生じた場合には、速やかにメールにより担当教員に質問することにより不明点を残さないように学習を進めていただきたい。また、各テーマの学習時間は5～10時間を想定しており、履修者は計画的に学習を進めることが求められる。</p>		
スケジュール	<p>前半はテーマ①から⑥を学習範囲とする。6月末までに一通りの学習を終了させ、「基本教材1」のレポート課題1を7月15日、レポート課題2を8月15日までに、それぞれ初稿を提出していただき、9月15日を最終稿の提出期限とする。 後半はテーマ⑦から⑫を学習範囲とする。11月中旬までに一通りの学習を終了させ、「基本教材2」のレポート課題1を11月15日、レポート課題2を12月15日までに、それぞれ初稿を提出していただき、1月15日を最終稿の提出期限とする。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	各テーマの学習目標を理解した内容となっているか。 結論が明確であるか。 結論にいたるまでの説明がロジカルであるか。 重要な論点をおさえているか。
	平常評価	30%	活発に質問をしたか（加点のみで減点はなし）。 レポートの提出期限を厳守したか。 レポートの初稿から最終稿までの改善度及び努力の程度。
履修者への要望	<p>会計関係の知識の有無は問いませんが、マーケティング、経営戦略の基本的な知識を習得しているか、あるいは当該科目を履修中であることが望ましいと考えます。“計画的かつ学修方法において示した時間を投入して学習できること”が履修要件と考えています。年度初めにたてた計画に従い、各学習目標毎の問題について必ず回答を準備してから解答と照らし合わせ、疑問点は躊躇することなく教員にメールで質問し、各テーマの学習目標を着実にクリアしてください。また、回答の準備、質問あるいはレポートにおいては「限られた情報を前提に常に意思決定を行う。」という姿勢で臨んでください。なお、履修希望者になるべく早く学修をスタートさせていただくために、履修登録を行うと同時に担当教員 (marumori.kazuhiro@nihon-u.ac.jp) にその旨メールにて連絡をお願いいたします。勿論、その後の履修取り消し期間内において取り消しをすることは構いません。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名：伊藤邦夫 教材名：『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社，2014年）ISBN:978-4-532-13448-8 3,500円+税
	会計基準や制度の説明にとどまらず，企業の会計行動や会計事象にも焦点をあて，その背後にある要因の説明に多くのスペースを割いている。国内で評価の高いMBAコースの基本テキストとして採用されており，理論や歴史から実務事例までを網羅している点で，修士課程の基本教材として最適である。
参考図書	金子智朗『MBA財務会計第2版』（日経BP社，2006年）ISBN:978-4822245344 2,592円
履修上のポイント	「複式簿記と財務諸表の構造」（テーマ①）をまず理解したうえで，企業活動（販売，購買・生産，設備投資，研究開発・マーケティング・人的資源管理，投資と資金調達）により，その投影図である財務諸表のどの部分がどのように変化するか（テーマ②から⑥）を理解する。その際，「企業の具体的な活動が財務諸表にどう表現されるか」とともに「損益とキャッシュ・フローは一致しない。」を常に意識することが重要である。
レポート課題 1	「損益とキャッシュ・フローは一致しない。」という命題について，①どのようなメカニズムでそうなるのか，②なぜこの命題が重要なのか，③①及び②から導き出される経営管理上の留意点は何か，という観点から説明してください。 留意点：テーマ①から⑥までの内容を丹念に復習して課題に臨んでください。
レポート課題 2	株式会社ファーストリテイリング（2014年8月期）の有価証券報告書をもとに，同社の経営戦略及び企業活動を分析してください。 留意点：特にマーケティング，生産管理，などについての知識をフルに使い，同社の戦略が財務諸表にどのように表現されているかという観点から，具体的な分析を行ってください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名：伊藤邦夫 教材名：『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社，2014年）ISBN:978-4-532-13448-8 3,500円+税
	会計基準や制度の説明にとどまらず，企業の会計行動や会計事象にも焦点をあて，その背後にある要因の説明に多くのスペースを割いている。理論や歴史から実務事例までを網羅しており，また国内で評価の高いMBAコースの基本テキストとして採用されている点で，修士課程の基本教材として最適である。
参考図書	金子智朗『MBA財務会計第2版』（日経BP社，2006年）ISBN:978-4822245344 2,592円
履修上のポイント	前半でカバーできなかった，引当金，税金と税効果，キャッシュ・フロー計算書，外貨建取引，連結とM&A（テーマ⑦から⑩），を取り上げて到達目標①を達成するとともに，各テーマ毎に取り上げてきた経営分析と評価（テーマ⑫）をまとめることにより，到達目標②を達成する。会計政策を使って「企業をどう見せるか」ということと，ファンダメンタル分析の方法とその限界を理解することが重要である。
レポート課題 1	損益とキャッシュ・フローに与える影響から「実質的会計政策」を分類し，日本の中小企業の多くが該当する非上場のオーナー会社において，分類された各々の「実質的会計政策」を行使する目的とその具体例を論じてください。 留意点：経営者の立場から考察してください。
レポート課題 2	ケース「C社」を分析し，投資対象としてのC社の評価とその理由を論じてください。 留意点：ファンダメンタル分析を行った上で，これまでの学習で得た知識を最大限に活用してください。